

# 私の日本(本州)一周ヨット旅 (2020年5/29~8/14)

—秘湯・銘酒・大物釣り巡り—

おおみぎし  
近江岸 敏明 (S49 商)

令和2年6月末より8月中旬まで、コロナを逃れて一か月半の航海をしました。



船尾シートでの私

私の大好きな時間はカンカン照りの午後、鎌倉・材木座に沖出したディンギー (小型の1・2名乗りヨット) で波間に揺られながら (一人酒盛り) 缶ビールをプシューと開ける刻です。こんな呑ん兵衛の話を一寸お聞きになって下さい。



そんな私とヨットとの付き合いは小学低学年の頃、叔父さんに琵琶湖で度々乗せて貰った時を始めとしています (当時大津の人達は普通にヨットに乗っていました)。塾高・大学とヨットで遊ばせて頂いて、会社員になっても鎌倉にあった社会人のヨットクラブでディンギーに乗ったり、新しく出来た八景島にヨットを置いて近所の自宅から通う楽しい日々もありました。

後年、札幌転勤になった時、人手不足のヨット仲間に誘われたのも昔の友人の縁でした (ヨットの世界は狭くあちこちに知り合いが多い)。そのクラブは小樽を基点にした外洋レースが主体で、普段は猛練習と試合に、夏はロングクルージングの二刀流で行くのを常としていました。

北海道一周を始め・北海道⇄沖縄・日本海周遊等々、と毎夏長期航海を



小樽港外を「帆走する「ミルクィウェイV号」

繰り返し徐々に経験値が上がってゆきました。

今回は唯一、此の船でまだ走っていない鹿児島⇒名古屋（気象状況で九州南部は未踏になった）を帆走すべく航海計画を立てました。乗員男性4名の年齢構成は、経験豊かな艇長（73）、私の友人（71）、私（67）、若い人（50）です。何れも呑ん兵衛の平均年齢65歳の高齢者集団です。

日本沿岸の秘湯と旨い酒の探求、あと出来れば大物釣りを目的に航海しました。

詳細は「航海日誌」、「ヨット用語解説集」および「写真集」をご覧ください。

### 航海ルート

→  
(緑色線)

